縄文遺跡シンポジウム

縄文人のムラとマツリの風景

猪形土製品（十腰内(2)遺跡）

日　時
2019年（令和元年）
10月5日（土）
13時～17時

会　場
弘前文化センター
2階大会議室
（弘前市下白銀町19−4）

入場無料
事前申込不要

縄文文化は、約1万年の長きに渡り日本列島各地で栄え、狩猟・採集・漁撈を行いながらも定住を達成した世界でも類を見ない文化です。

弘前市内では、重要文化財の猪形土製品が出土した十腰内（2）遺跡や、希少な縄文時代晩期の環状列石が発見され、現在「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産として、世界遺産登録への取り組みが進められている史跡大森勝山遺跡など、多くの縄文遺跡が発掘調査され、貴重な成果も得られています。

この近年の調査成果から見た縄文文化の様相を紹介し、ひいては市内の縄文遺跡を含む文化財の保護への理解を深めて頂く機会として、「縄文遺跡シンポジウム」を開催いたします。

会場へのアクセス

【車】
東北自動車道大鰐弘前ICから約30分
JR弘前駅前からタクシーで約10分

【バス】
弘南バス・浜の町方面
「文化センター前」下車

【電車】
JR弘前駅から徒歩約25分
弘南鉄道中央弘前駅から徒歩約20分

プログラム

報告
弘前市内の縄文遺跡
―これまでの発掘調査成果から―
弘前市教育委員会　佐藤信輔

講演
青森県内の縄文時代
前・中期のムラとマツリの風景
三内丸山遺跡センター　岩田安之 氏

講演
風張と是川の縄文ムラとマツリの風景
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館　小久保拓也 氏

講演
青森県外・海外から見た縄文文化
東京国立博物館　品川欣也 氏

パネルディスカッション
縄文人のムラとマツリの風景
コーディネーター
史跡大森勝山遺跡整備指導委員会委員長　工藤竹久 氏

三内丸山遺跡全景（三内丸山遺跡センター提供）

是川石器時代遺跡整備完成予想図
（八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館提供）

［主催］　弘前市教育委員会　　［後援］　三内丸山遺跡センター・八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

お問い合わせ　弘前市教育委員会文化財課埋蔵文化財係　〒036-1393 青森県弘前市大字賀田１丁目1-1　TEL：0172-82-1642

独狐七面山遺跡出土土偶

プログラム

12:00	《開場・受付開始》
13:00	《開会》
13:02	《開会挨拶》 弘前市長 櫻田 宏
13:05	《報告》 弘前市教育委員会文化財課 佐藤信輔 **「弘前市内の縄文遺跡 －これまでの発掘調査成果から－」**
13:45	《講演》 三内丸山遺跡センター 岩田安之氏 **「青森県内の縄文時代前・中期のムラとマツリの風景」**
14:25	《休憩》
14:35	《講演》 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 小久保拓也氏 **「風張と是川の縄文ムラとマツリの風景」**
15:15	《講演》 東京国立博物館 品川欣也氏 **「青森県外・海外から見た縄文文化」**
15:55	《休憩》
16:05	《パネルディスカッション》**「縄文人のムラとマツリの風景」** コーディネーター 工藤竹久氏 パネリスト 岩田安之氏、小久保拓也氏、品川欣也氏、佐藤信輔
17:00	《閉会挨拶》 弘前市教育委員会教育長 吉田 健

講演者略歴

佐藤信輔

現職：弘前市教育委員会文化財課埋蔵文化財係主事

1992年、青森県弘前市出身。東北大学大学院文学研究科修了後、弘前市役所採用。主な専門分野は、縄文時代の土偶。主な編著作・論文には、2019年「X線CTを用いた内部構造の分析に基づく土偶製作技術の研究」『Bulletin of the Tohoku University Museum』18 がある。

岩田安之氏

現職：三内丸山遺跡センター 保存活用課 副課長

1972年、岐阜県羽島郡笠松町出身。金沢大学大学院文学研究科修了後、金沢大学埋蔵文化財調査センター、青森県埋蔵文化財調査センター、青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室を経て、現職。主な専門分野は考古学。主な編著作・論文には、2011年「頻度のセリエーション、系統のセリエーション、流行のタイムラグ－青森県縄文時代前期後半における土器の分析－」『考古学と陶磁史学：佐々木達夫先生退職記念論文集』、2012年「三内丸山遺跡のミニチュア土器に関する予察」『特別史跡三内丸山遺跡年報』15がある。

小久保拓也氏

現職：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 縄文の里整備推進グループリーダー（主幹）

1976年、埼玉県日高市出身。國學院大學文学部史学科卒業後、新潟県朝日村（奥三面遺跡調査室）嘱託、八戸市教育委員会学芸員を経て、現職。主な専門分野は、縄文時代の漆・木製品・土偶。主な編著作・論文には、2018年「縄文時代の漆」『JOMON』vol.7、2018年「土偶（風張1遺跡出土）」『國華』1469号、2017年「合掌土偶の内部構造」『是川縄文館研究紀要』第6号がある。

品川欣也氏

現職：国立文化財機構東京国立博物館学芸研究部調査研究課考古室長・文化財活用センター貸与促進担当室長

1975年、青森県南津軽郡田舎館村出身。明治大学大学院文学研究科史学専攻考古学専修博士後期課程中途退学後、明治大学文学部助手、明治大学校地内遺跡調査団調査研究員を経て、現職。主な専門分野は、日本考古学、北日本、縄文時代・弥生時代、土器、土偶、土偶形容器、顔面付壺形土器、葬墓祭制。主な編著作・論文には、2004年「土偶と石棒からみた縄文祭祀のゆくえ」『季刊考古学』第86号、2005年「砂沢式土器の細分と五所式土器の位置づけ」『関東・東北弥生土器と北海道続縄文土器の広域編年』がある。

工藤竹久氏

現職：史跡大森勝山遺跡整備指導委員会委員長・青森県文化財保護審議会委員・八戸市文化財審議委員

1949年、青森県むつ市出身。立正大学文学部史学科卒業後、八戸市立歴史民俗資料館に勤務し、史跡根城跡の発掘調査、整備事業に従事し、文化財課長、八戸市立博物館長等を歴任。主な専門分野は、縄文晩期から弥生時代への移行期。主な編著作・論文には、1987年「東北北部における亀ヶ岡式土器の終末」『考古学雑誌』、1990年『遺跡が語る八戸の歴史』、2016年『概説八戸三社大祭』がある。